

## 巻頭言 障がい者大量殺害事件について

一般社団法人日本社会福祉学会 会長 岩崎 晋也 (法政大学)

2016年7月26日、神奈川県障害者支援施設「やまゆり園」で、元職員の男性により、障がいをもつ19名の利用者が殺害される事件が発生しました。

報道によると、被疑者は、事件前に衆議院議長に宛てた手紙の中で、「障害者は人間としてではなく、動物として生活を過しております。車イスに一生縛られている気の毒な利用者も多く存在し、保護者が絶縁状態にあることも珍しくありません。私の目標は重複障害者の方が家庭内での生活、及び社会的活動が極めて困難な場合、保護者の同意を得て安楽死できる世界です。重複障害者に対する命のあり方は未だに答えが見つかっていない所だと考えました。障害者は不幸を作ることしかできません。」と記し、また「ヒトラーの思想が降りてきた」とも語ったとのこと。被疑者が、いかなる動機でこのような悲惨な事件を起こしたのかは、今後の裁判等で明らかになることを期待しますが、少なくとも、優生思想に基づいて自らの行為を正当化していることに、社会福祉に関わる者として大きな衝撃を受けました。なぜなら優生思想は、社会福祉が目指す価値とは正反対のものだからです。

優生思想とは、人間を優秀で生きるに値する生と劣等で生きるに値しない生に選別し、前者を増やし、後者を抑制することで、人類の発展をもたらすという考え方です。その方法として、ナチスドイツは、いわゆる「T4作戦」で障がい者の大量安楽死を計画し、少なくとも7万人の障がい者をガス室で殺害したのです。ナチスドイツ以外の国々では、このように積極的に排除する政策は行われなくても、劣等な生が遺伝的に再生産されないように、不妊手術や人工中絶等を行うことが政策化されました。日本でも、戦前の1940年に国民優生法が制定され、また戦後においても1948年の優生保護法に引き継がれました。この法律の第一条では、「この法律は、優生上の見地から不良な子孫の出生を防止するとともに、母性の生命健康を保護することを目的とする。」と書かれ、優生思想に基づくことが明記されていました。この法律は、障がいをもつ当事者からの撤廃運動などを受けて、1996年によりやく改正され、優生思想を排除した母体保護法となりました。

優生思想の一番の問題点は、人間を優秀な生と劣等な生に選別することです。ひとたび劣等な生と選別された者は、社会にとって「重荷」であり、本人にとってもこの社会で生きることは「不幸」であるとのレッテルを貼られます。このような考え方は、自分が優秀な生の側に立っており、劣等な生に選別されることはないという前提がなければ支持できません。他者を自らと比べ劣る異質な存在と規定することで、自らの優越感を確認しているのです。ナチスドイツが障がい者やユダヤ人を劣等な生であり、ゲルマン民族は優秀な生であると盛んに宣伝していた時代は、第1次世界大戦の敗戦、その後の経済不況によりドイツ国民が自信を失っていた時でした。そうした時代状況もあり、ナチスの主張が支持されたのです。そして現代社会においても、ケインズ主義福祉国家政策は行き詰まり、経済のグローバル化、

雇用の不安定化、所得格差の拡大、宗教テロの増加、難民の増加など、人々の生活を不安にさせる要因が増加しています。こうした状況は、優生思想など他者を差別する思想が受け入れられやすい土壌を作り出していると言えます。

こうした時代だからこそ、社会福祉学、そして社会福祉実践・運動の力が問われていると言えます。なぜなら社会福祉は、社会の中で異質な他者として排除されやすい人々を支援し、社会の一員として参加できる環境を作ることが、自らの重要な役割であると自認してきたからです。にもかかわらず、退職していたとはいえ、社会福祉実践を行っていた者が、このような事件を起こしたことを知って、言葉にならない思いです。

とはいえ、私たちにできることの一つは、社会福祉が担ってきた社会的役割を再確認し、多くの人に、社会福祉が目指している価値の重要性を伝えていくことではないでしょうか。

たとえば知的障がい児や重症心身障害児施設の実践家であり、社会福祉の思想家でもある糸賀一雄（1914-1968）は、社会福祉が目指す価値を「この子らを世の光に」という言葉で表現しました。糸賀は、一般的には、不幸な障害をもつ「この子らに世の光を」当て、あわれみの政策を求めると理解されるが、そうではなく、重度の障がいをもつ子らの生きる姿に周りの人々が学ばされることへの気づきを通して、「この子らを世の光に」とする社会の実現を求めたのです。

私たちは、異質な光を受け止められる人々を増やすための様々な取り組みを、あきらめずに今後も続けていくこと、それこそが社会福祉学、そして社会福祉実践・運動に、引き続き求められている課題なのではないでしょうか。